

2002 Vol.2 Suppl.

*The Japanese Journal of Welfare and Aesthetics*

# 日本美容福祉学会誌

---

## 「美容福祉の可能性」

---

会期／2002年10月20日(日)

会場／八王子学園都市センター  
〈八王子スクエアビル内〉



抄録集

日本美容福祉学会

|       |      |
|-------|------|
| 大会長   | 塩原正一 |
| 事務局長  | 木村康一 |
| 副事務局長 | 杉浦ゆり |

*Japanese Society of Welfare and Aesthetics*

# **第2回日本美容福祉学会学術集会**

**－美容福祉の可能性－**

**会 長      塩 原      正      一**

**(山野美容芸術短期大学美容福祉学科教授)**

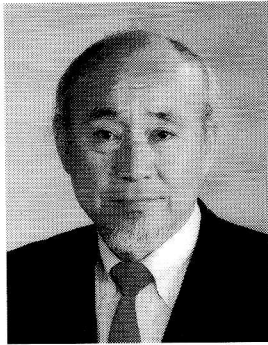
**会 期：2002年10月20日（日）**

**会 場：八王子市学園都市センター**

**協 賛：山野美容芸術短期大学**

# 目 次

|                                 |    |
|---------------------------------|----|
| 会長ご挨拶                           | 1  |
| 歓迎のご挨拶                          | 3  |
| お知らせ                            | 4  |
| 会場案内                            | 6  |
| プログラム                           | 7  |
| 会長講演                            |    |
| 『おしゃれと身だしなみに関する全国調査』            | 10 |
| エキシビション                         |    |
| 『高齢者の美容』                        | 16 |
| 特別講演                            |    |
| 『高齢者にとって 生きるということ 装うということ』      | 18 |
| シンポジウム                          |    |
| 『美容福祉の可能性 ―現場からの提言―』            |    |
| 精神科病院に美容院を開設して                  | 22 |
| 老人施設におけるコスメティック・セラピー            | 24 |
| 色彩からのアプローチ                      | 26 |
| ワークショップ                         |    |
| 『高齢者のハンドケア ―ネイルケアとハンドマッサージの方法―』 | 30 |
| 広告協賛一覧                          | 31 |



## ご挨拶

第2回日本美容福祉学会学術集会

会 長 塩 原 正 一

第2回日本美容福祉学会学術集会（学会）開催を本日（10月20日）迎えられたことは大変喜ばしいことです。これも皆さまをはじめ一重に多くの学会関係者、協力者のお陰と感謝しております。

第2回学術集会（学会）の八王子市学園都市センターでの開催は、市民一般の方々をお迎え出来ますし、高齢者・障害者の方々への福祉サービスを地域・一般の人々と共に理解し、還元するといった社会的責任を果たすと同時に、開かれた日本美容福祉学会学術集会（学会）を目指します私共に取っては望むところであります。八王子市民の方々への感謝の念に堪えません。

「美容福祉（学）」という言葉表現は過去1年余りで予想以上に多くの人に広まり、浸透、認識していただき始めました。しかし美容福祉（学）の真の意味する内容は未だ明確でなく、むしろ益々漠然とした曖昧さに欲求不満を感じることもあります。高齢者や障害者の方々に単に化粧やメイクアップをすることのみ、美容福祉（学）と解釈される方向にその傾向が強まることに少々危惧を持ちます。化粧やメイクアップは高齢者や障害者の方々に話しかけたり、話を聞いたり、あるいは肌に触れたりする事でコミュニケーションが取れる方法の一つの手段であって、高齢者や障害者サービスの最終目的ではないと思います。これは化粧やメイクアップ等の果たす役割・その重要性は十分に理解した上で申しております。

最近、介護福祉士養成系の専門学校に美容系の、美容師養成専門学校に介護福祉士系のカリキュラムがそれぞれ導入されつつあります。例えば、大阪の専門学校で健康福祉科の健康美容福祉コースにメイク技法、ネイルケア、健康美容化粧療法、また同府の医療専門学校の医療福祉科にメイクアップセラピー等があります。これら学科の目的は美容技術を持つ介護福祉士養成です。美容師系ではホームヘルパー2級課程（訪問介護員2級課程）を授業に組込む養成施設があります。

更に地域の現場では美容介護（Cosmetic Care）と称して高齢者を対象とした化粧のボランティア活動をしている団体もあります。同様の活動をしている個人の美容師の方々も多く見受けるようになりました。いずれにしてもこれらの言葉表現や活動現象は美容福祉（学）の範疇に入ると思います。重要なのは単語や語彙、表現が一致することで



はなくて共通の概念をどのように発展させ、高齢者や障害者サービスに役立てるかを問い直し、行動介入を根付かせ、広めることにあります。

さて、ここでもう一度「おしゃれ・身だしなみ」や「身ぎれい」をする・になる等を、特に高齢者や障害者の方々を対象に何故必要以上に言及するのかを考えてみます。

「おしゃれ・身だしなみ」や「身ぎれい」は社会的なもの、必要なものであって、高齢者や障害者の特権的なものではないとするならば本質的には意味ある表現は取るべきではないと思います。「おしゃれ・身だしなみ」や「身ぎれい」の方法手段として化粧があります。化粧をすることが社会生活で生きるため、自己主張の方法で個性の主張を表わす一つとします。個性は継続であってこそ個性ですから化粧は継続でなければなりません。しかし、われわれは自分自身の顔や頭や背中には直接には見られません。つまり身体全体の像は想像力を介してしかとらえられない、結果として他人の目や思想を介して自分自身の化粧やメイクアップを評価することになります。しかも言葉や言語の表現力によりその情報が入るにもかかわらず、無意識のうちに化粧と言う言葉、現象は一元性と思ってしまうことになります。化粧の目的が若く見せる、美しく見せるとなると「おしゃれ・身だしなみ」や「身ぎれい」をする・になるを化粧と結びつける明確なものは何もないことにもなります。しかし漠然として越えられない何かがあっても、例えば代替療法として、個性的・個性の尊重の線上で高齢者や障害者の方々も化粧やメイクアップ、あるいは「おしゃれ・身だしなみ」や「身ぎれい」に身を委ねることは何のマイナスもないことは確かです。

日本美容福祉学会は「おしゃれ・身だしなみ」や「身ぎれい」の追求の幅を広げ、例えば「心のおしゃれ、言葉遣いのおしゃれ」また美感覚のおしゃれなどを意図的な概念ではなく、高齢者や障害者の主体性のある新しい”おしゃれ”や”物”として追いかけていきたいと思っています。

平成14年10月20日



## 『美容福祉』は高齢社会のキーワード

— 日本美容福祉学会第2回学術集会によせて —

学校法人山野学苑理事長  
山野美容芸術短期大学学長

山 野 正 義

第2回日本美容福祉学会学術集会が、美容福祉に関する理論を深め、実践への具体的な展望を提起されることを心から期待して、お祝いと激励のメッセージを贈ります。

山野美容芸術短期大学は、「髪・顔・装い・精神美・健康美」からなる「美道」を追究する日本で初めての美容系短期大学として、1992年4月に創設されました。当初は「美容芸術学科」1学科でしたが、4年後の1996年4月、美容を健康の分野に発展させることを目指して「美容保健学科」を開設しました。こうした実践を通じて、美容は外見を装うだけの手段ではなく、「より美しく、より健やかな人生を」と願う人々に対する日常的な支えとなり、豊かな人生をおくるための励ましの手段として重要な要素であることに、私は確信を深めてきました。

一方、20世紀の後半から、日本の高齢化は先進諸国に例をみないほど急ピッチで進行する事態となり、欧米に比べて、著しく立ち遅れていた高齢者や障害を持つ方々に対する福祉をどうするかが、クローズアップされてきました。こうした中で私は、美容が健康な人々の人生に不可欠な要素であるなら、美しく健やかに生きることを最も切実に願っている高齢者や障害を持つ方々にこそ、美容の手を差し伸べてあげることが必要なのではないかと考え、1999年4月に「美容福祉学科」を開設して、教育と実践に着手しました。

今年3月、その美容福祉学科第1期生が卒業しました。卒業を前にした2月にアメリカ研修旅行に行きましたが、彼らは、サドルバッグ・カレッジで、サンドラ・マゼリ教授から、「Sunset is beautiful as Sunrise.」とのテーマで講義を受け、さらにレジャー・ワールドで高齢者や障害を持つ方々が、健康な人々と同じように、人生を楽しんでいる様子を見学した結果、山野美容芸術短期大学が提起した美容福祉の理論と実践の正しさに確信を深めて帰ってきました。

また、山野美容芸術短期大学は、全国で働いている美容師が、美容を通じて新しい介護を実践できるようにすることを目指して、「訪問介護員2級課程講習」を開催してきました。現在までに、約100人が講習を修了して、施設・在宅を問わず、訪問美容に取り組んでいます。この訪問介護員資格を持った美容師が広範に活躍できる組織として、9月には「NPO全国介護美容福祉協会」が設立されました。山野美容芸術短期大学は、このNPOの活動に対しても、全面的に支援していく方針です。

美容福祉学科開設から約半年後に設立された「日本美容福祉学会」は、「福祉とおしゃれ…介護の視点から」をテーマに、昨年4月、第1回学術集会を開催され、美容福祉に関する研究成果をまとめられました。日本美容福祉学会のこうした活動は、美容福祉に関する理論をより発展させるものであるとともに、教育・実践に取り組んでいる我々に対する大きな励ましともなるものです。

第2回日本美容福祉学会学術集会の成功と、日本美容福祉学会の発展を心から期待します。

## お 知 ら せ

### □受 付

#### 1. 場所

八王子学園都市センター イベントホール前（八王子スクエアビル 12 F）

#### 2. 参加手続き

##### 1) 会員 ① 事前申し込みをされた方：

ネームプレート（兼領収書）、抄録集等をお受け取りください。

##### ② 当日申し込みをされる方：

参加申し込み票にご記入の上、参加費（2,000 円）と引き換えにネームプレート（兼領収書）、抄録集等をお受け取りください。

##### 2) 一般：参加申し込み票にご記入の上、参加費（3,000 円）と引き換えにネームプレート（兼領収書）、抄録集等をお受け取りください。

##### 3) 学生：参加申し込み票にご記入の上、参加費（1,000 円）と引き換えにネームプレート（兼領収書）、抄録集等をお受け取りください。

#### 3. 入会手続き

学会入会手続きも受付で行っております。

### □会 場

ワークショップは 12F 第 1 セミナー室で行います。

懇親会は 11F クレアで行います。

上記以外のプログラムは 12F イベントホールで行います。

会場内は休憩所を除き、飲食は禁止となっておりますので、ご協力ください。

なお、開場は 9 時 30 分から、プログラムの開始は 10 時からとなっております。

### □ワークショップ

#### 「高齢者のハンドケア – ネイルケアとハンドマッサージの方法 –」

参加ご希望の方（学生含む）は、受付で参加費（1,000 円）を添えてお申し込みください。

申込者が多数の場合は制限させていただく場合があります。

ワークショップで用いるネイルケアグッズはお持ち帰りいただけます。

### □抄録集

当日不参加の会員には、後日抄録集を無料でお送りします。なお、追加で抄録集が必要な方は、1,000 円で販売いたします。受付でお求めください。

## □懇親会

17時30分からクレア（八王子スクエアビル11F）にて行います。参加ご希望の方（学生含む）は、受付で参加費（3,000円）を添えてお申し込みください。

## □入 場

会場への入場に際しましては、必ずネームプレートをお付けください。  
ネームプレートのない方は入場できません。

## □発言者

係りの者がお席までマイクを持って参ります。  
質疑、討論の発言者は、「所属、氏名」を述べ、簡潔に発言してください。

## □呼び出し

原則として行いませんが、用件は受付近くの掲示板に掲示します。  
また、参加者間の連絡に掲示板をご利用ください。

## □休憩所

イベントホール前のロビーにをご利用ください。

## □昼 食

学会では準備いたしませんので、各自お近くでお済ませください。

## □関連書籍の展示販売

イベントホール前のロビーで、関連書籍の展示販売を行います。  
生活協同組合「東京インターカレッジコープ」のご協力により、10%引き（専門書の一部に対象外の書籍があります。）で販売いたしますのでご利用ください。

## □アンケート

今回の学術集会についてのアンケートにご協力ください。  
今後の活動及び次回の学術集会開催の参考とさせていただきます。  
受付にて回収させていただきます。

## □事務局

事務局員は「スタッフ」の名札をつけております。  
なお、第2セミナー室が事務局控え室となっております。

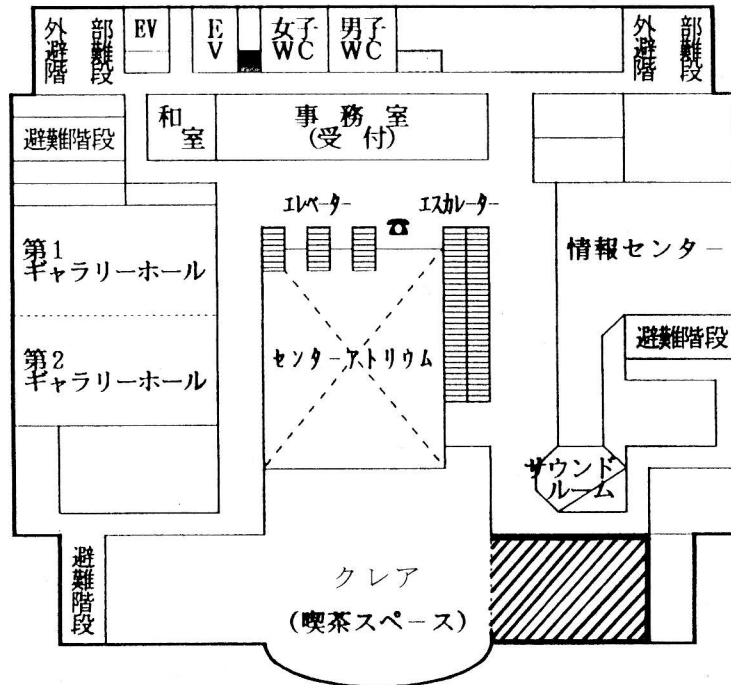


# 会場案内図

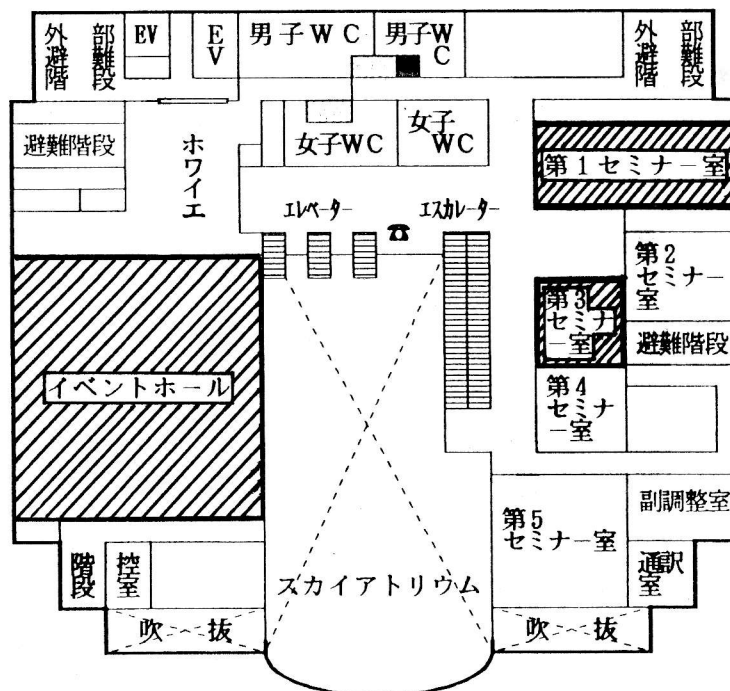
## 八王子市学園都市センター

メイン会場：イベントホール（12F）  
 ワークショップ：第1セミナー室（12F）  
 懇親会：クレア（11F）  
 事務局：第3セミナー室（12F）

11 階案内図



12 階案内図



## プログラム

- |                                             |             |           |
|---------------------------------------------|-------------|-----------|
| □ 会長ご挨拶                                     | 10:00～10:05 | ＜イベントホール＞ |
| 塩原 正一（山野美容芸術短期大学教授）                         |             |           |
| □ 歓迎のご挨拶                                    | 10:05～10:10 | ＜イベントホール＞ |
| 山野 正義（学校法人山野学苑理事長、山野美容芸術短期大学学長）             |             |           |
| □ 会長講演                                      | 10:10～10:50 | ＜イベントホール＞ |
| 「おしゃれと身だしなみに関する全国調査」                        |             |           |
| 塩原 正一（山野美容芸術短期大学教授）                         |             |           |
| □ エキシビション                                   | 10:50～11:30 | ＜イベントホール＞ |
| 「高齢者の美容」                                    |             |           |
| 鈴木 昌子（山野美容芸術短期大学教授）                         |             |           |
| 及川麻衣子（山野美容芸術短期大学講師）                         |             |           |
| □ 総 会                                       | 11:30～12:00 | ＜イベントホール＞ |
| □ 来賓のご挨拶                                    | 13:15～13:30 | ＜イベントホール＞ |
| 黒須 隆一（八王子市長）                                |             |           |
| □ 特別講演                                      | 13:30～14:30 | ＜イベントホール＞ |
| 「高齢者にとって 生きるということ 装うということ」                  |             |           |
| 樋口 恵子（東京家政大学教授）                             |             |           |
| □ シンポジウム                                    | 14:30～16:00 | ＜イベントホール＞ |
| 「美容福祉の可能性 ―現場からの提言―」                        |             |           |
| 座長 佐藤 林正（九州看護福祉大学教授）                        |             |           |
| ・ 精神科病院に美容室を開設して 岩崎由美子（昭和大学附属烏山病院精神保健福祉士）   |             |           |
| ・ 老人施設におけるコスメティック・セラピー 原 千恵子（山野美容芸術短期大学助教授） |             |           |
| ・ 色彩からのアプローチ 南 涼子（カラー・コンサルタント）              |             |           |
| □ ワークショップ                                   | 16:00～17:00 | ＜第1セミナー室＞ |
| 「高齢者のハンドケア ―ネイルケアやハンドマッサージの方法―」             |             |           |
| □ 懇親会                                       | 17:30～19:30 | ＜クレア＞     |

**会 長 講 演**

10:10~10:50

＜イベントホール（12F）＞

「おしゃれと身だしなみに関する全国調査」

塩 原 正 一

（山野美容芸術短期大学美容福祉学科教授）

## 会 長 講 演

### 「おしゃれと身だしなみに関する全国調査」

－ 介護施設従事・利用者および一般者の意識の比較 －

塩原正一（山野美容芸術短期大学美容福祉学科教授）

厚生労働省がまとめた 2001 年の簡易生命表で日本人の平均寿命は男性 78.07 歳、女性 84.93 歳になりいずれも過去最高を更新したことを発表した。65 歳以上人口の総人口に占める割合は 17.2 %（平成 12 年）を経て 40 年後には 32.3 %に達することを推測している。わが国の障害者は知的障害児（者）数は 413,000 人と推測され（平成 7 年）、平成 8 年の厚生省の身体障害者実態調査によれば身体障害者数は 293 万 3 千人（在宅）と推計されている。年齢階級別に見ると 70 歳以上が最も多く 40.2 %を占めている。これらの状況からわが国の高齢者・障害者の実態は多くの多様性を持って対応する必要がある。

日本美容福祉学会の目指す基本理念は高齢者・障害者を含めあらゆる人々が心身共に健康で社会生活を送ることにある。

第 1 回日本美容福祉学術集会（学会）で演者は「介護施設における”おしゃれと身だしなみ”への関心」と題して施設利用者（高齢者・障害者）および介護に携わる人（施設利用者）が、おしゃれや身だしなみあるいは身ぎれいを意識する、実施することで個性を大切にした健康で自立した豊かな社会生活を送ることができるノーマライゼーションの達成に少しでも役立ちたいことを目的とした調査結果の一部を報告した。今回は調査資料分析結果を具体的に少々報告する。

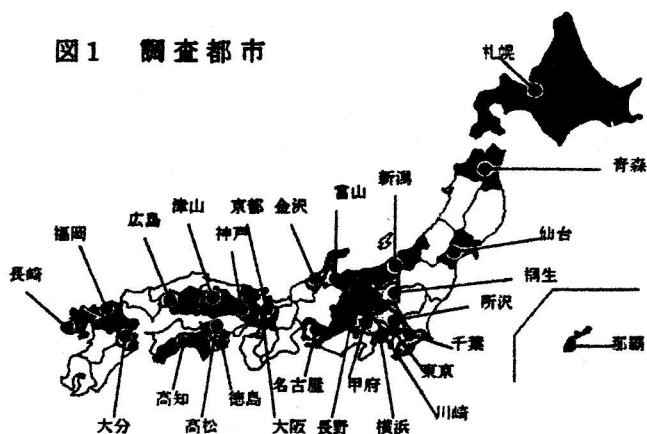
調査方法：前回第 1 回学術集会で報告したが若干のデータ修正があるので再度ここに記述する。

介護に携わる方（施設従事者）用、要介護者（施設利用者）用および一般者用に 3 種類のアンケート用紙を準備した。平成 12（2000）年 7 月から 13（2001）年 1 月の 7 ヶ月間に各地の施設等を訪問し、調査研究主旨を理解した箇所に依頼配布した（留置法）。

調査地域は政令指定都市を中心に札幌、東北、甲信越、関東、東京、中部北陸、関西、中国四国、九州沖縄地区、すなわち北海道から沖縄県まで全国 28 都道府県（図 1）の 68 市町村、102 福祉施設、51 団体である。

アンケート用紙は宅配便・郵送回収をした。アンケート内容は属性項目を除き

図 1 調査都市



全国 28 都道府県の施設等調査地域

3 種類とも設問数 24 ～ 26 でおしゃれと身だしなみに対する関心の意識項目 を主に選択回答式とした。

回収数は施設従事者「介護者（黄色用紙）」2926 名、施設利用者「要介護者（ピンク用紙）」2131 名、一般者（緑用紙）1471 名、合計 6528 名である（14 年 2 月 20 日現在 図 2）。

資料分析は施設従事者、施設利用者および一般者の共通設問等を中心に比較した。尚、北海道、東北、北陸、甲信越、北関東、千葉、東京（東東京、西東京、多摩地区）、神奈川、東海、関西（大阪）、中国、九州、および沖縄の計 18 ブロックに分けてこれを基軸にして行った資料分析を若干述べる。

結果：はじめに 3 者共通 5 設問について述べる。

設問①あなたにとって「おしゃれ」「身だしなみ」とは（理由）どのようなことですか？

②要介護者の衣服で最も「おしゃれ」「身だしなみ」が必要と思われるのは何ですか（介護者、一般者に）？

あなたは衣服類で最も「おしゃれ」「身だしなみ」をしたいのは何ですか（要介護者に）？

③あなたは化粧に関心をお持ちですか（介護者、一般者に）？

あなたは化粧をしたいと思いますか（要介護に）？

④あなたは特に化粧をした時にどんな気分になりますか？

⑤あなたは「おしゃれ」「身だしなみ」特に化粧をすることで要介護者の心身・障害・健康が少しでも改善されると思いますか？

さらに介護者、一般者に共通設問について若干述べる。

⑥あなたは高齢者・障害者に化粧が必要だと思いますか？

⑦化粧が必要だと思うと答えたその理由は何ですか？

以上 7 設問の全国 28 都道府県の施設従事者、施設利用者、一般者の結果は（図①～⑦）の通りである。

次に施設従事者（介護者）、施設利用者（要介護者）、一般者の単独設問の 1 例について述べる（図⑧～⑩）。

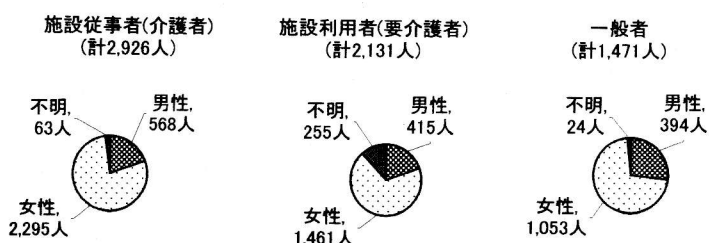
⑧あなたはこれまでに要介護者に対して次のことをしたことがありますか（介護者に）？

⑨あなたは他の人に化粧等（口紅をつけたり、散髪、髭剃り）をしてもらう時どんな気持ちですか（要介護者）？

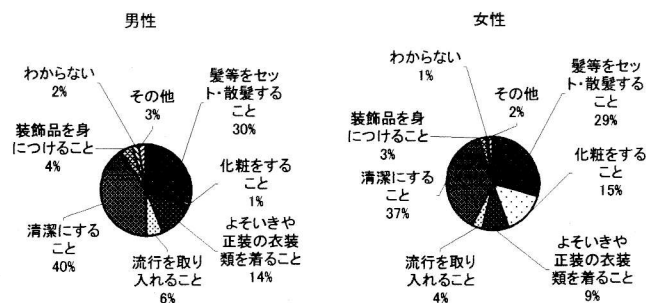
⑩あなたは次の療法のうち高齢者・障害者等の要介護者に最も効果があると思われるものは何ですか（一般者に）？

考察：以上の結果から施設従事者、施設利用者、一般者の各間で意識の異なる事項が明らかになった（講演時に）。

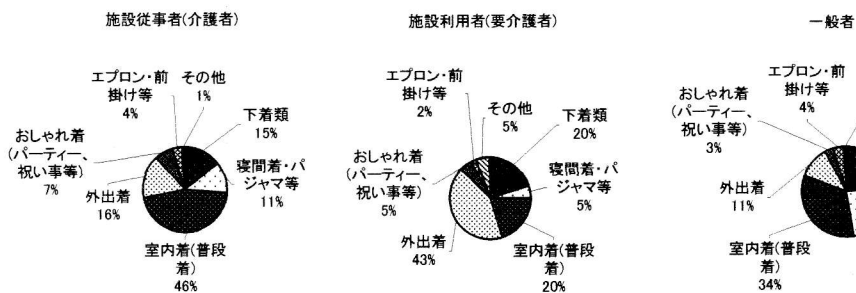
図 2 施設従事者（介護者）、施設利用者（要介護者）、一般者回収数（合計 6,528 人）



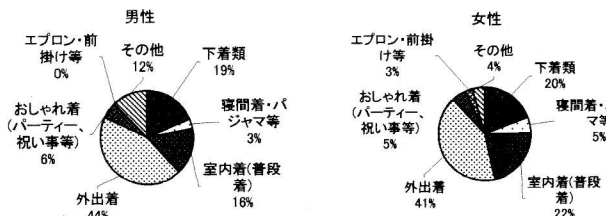
①「おしゃれ」「身だしなみ」とは(男女別・総数)



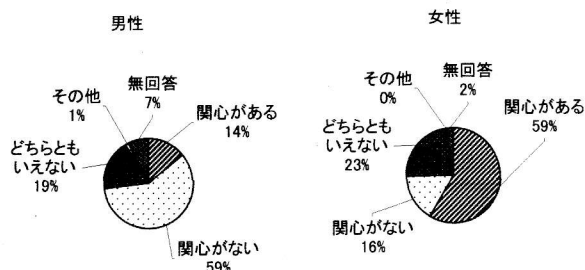
②「おしゃれ」「身だしなみ」が必要と思われるもの(対象者別・総数)



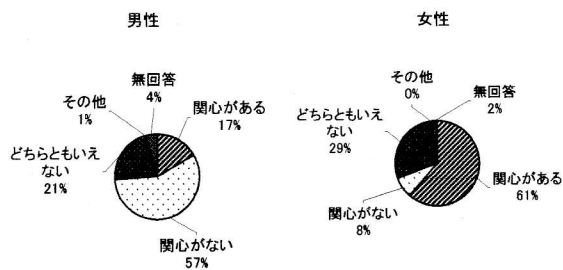
②「おしゃれ」「身だしなみ」が必要と思われるもの(施設利用者(要介護者)・男女別)



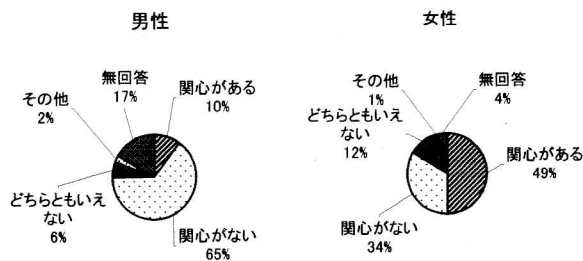
③化粧への関心(したいと思う)(男女別・総数)



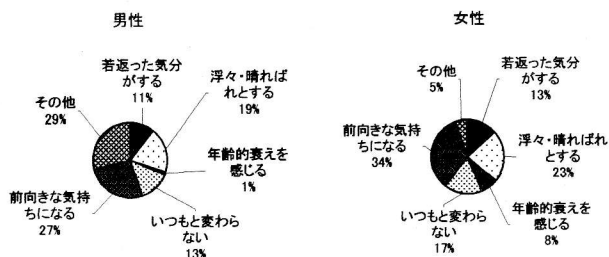
③化粧への関心(したいと思う)(施設従事者(介護者)・男女別)



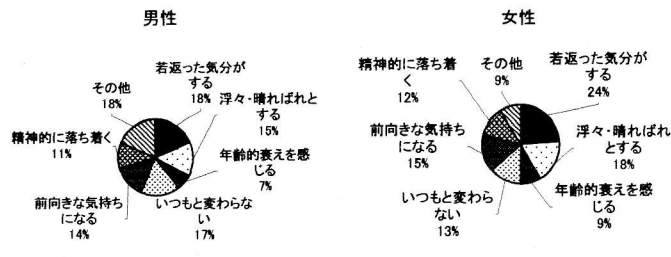
③化粧への関心(したいと思う)(施設利用者(要介護者)・男女別)



④化粧をしたときの気分(施設従事者(介護者)・男女別)

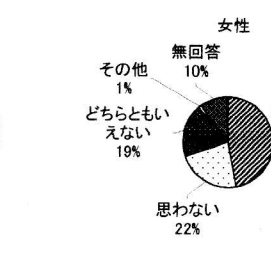
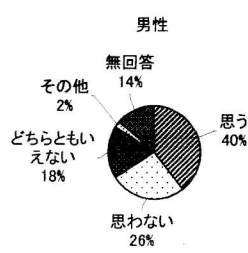
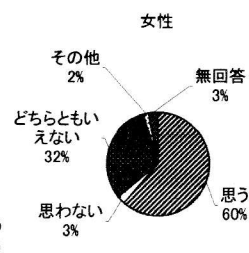
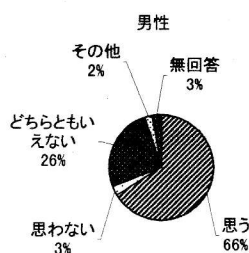


④化粧をしたときの気分(施設利用者(要介護者)・男女別)

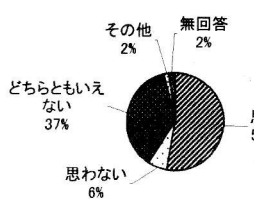




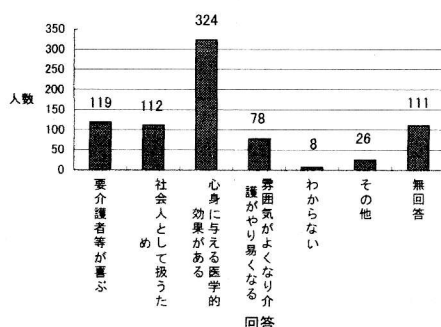
- ⑤化粧をすることで心身の障害・健康が少しでも改善される (施設従事者(介護者)・男女別)
- ⑤化粧をすることで心身の障害・健康が少しでも改善される (施設利用者(要介護者)・男女別)



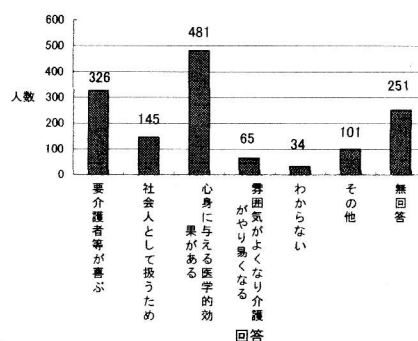
- ⑥高齢者・障害者等の要介護者に「化粧」が必要(一般者・総数)



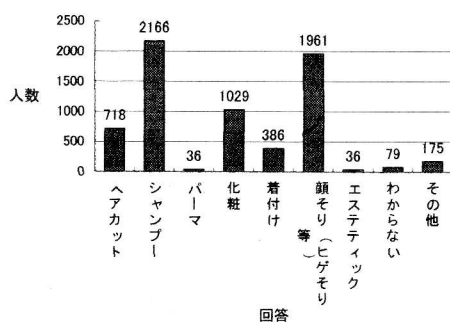
- ⑦高齢者・障害者等の要介護者に「化粧」が必要な理由(一般者・総数)



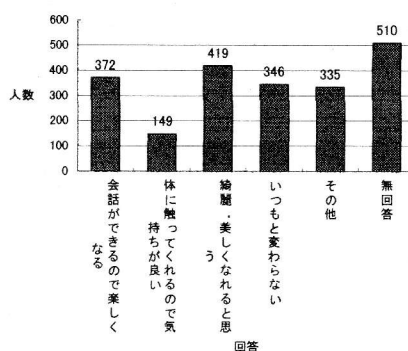
- ⑦高齢者・障害者等の要介護者に「化粧」が必要な理由(施設従事者(介護者)・総数)



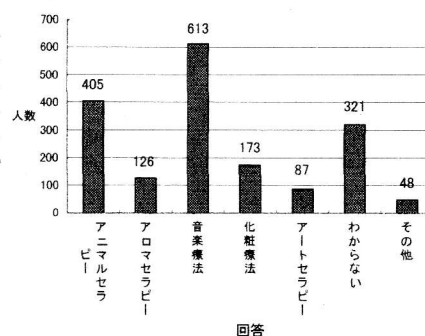
- ⑧要介護者に行なったことのあること (施設従事者(介護者)・総数)



- ⑨他の人に化粧等をしてもらう時どんな気持ちですか？ (施設利用者(要介護者)・総数)



- ⑩要介護者に効果があると思われるもの(一般者・総数)



#### 共同研究者

斎藤春枝(美容保健学科)※  
木村康一(美容保健学科)※  
杉浦ゆり(美容福祉学科)※  
原千恵子(美容福祉学科)※  
山井理恵(明星大学)

#### 研究協力者

上田明美(美容福祉学科学生)※  
※山野美容芸術短期大学

#### 謝辞

調査研究にご協力頂きました各施設の関係諸氏ならびに各市町村の福祉課の方々に心から深く謝意を表します。また、兵庫県介護福祉協会に山路喜代子会長には有料老人施設等のご紹介を頂き本当に感謝しております。

# エキシビション

10:50~11:30

＜イベントホール（１２Ｆ）＞

「高齢者の美容」

鈴木昌子

（山野美容芸術短期大学教授）

及川麻衣子

（山野美容芸術短期大学講師）

## 高齢者の美容

鈴木昌子・及川麻衣子（山野美容芸術短期大学）

いくつになっても綺麗になりたい、いつまでも美しくありたい、という美への追求は老若男女問わず永遠の課題でもあります。そしてそれは、全ての人に等しく与えられた最も単純かつ根本的な欲求であり、不変のものと言えるでしょう。

高齢の方で「お化粧なんて…」とか、「私はもう歳だから…」なんて諦めていらっしゃる方がいますが、おしゃれを楽しむことにもう遅いということはないですし、年齢制限ありません。お化粧は見た目の美しさはもちろんのこと、自分自身がおしゃれすることを乐しめ、いつまでも元気でいられるパワーを与えてくれます。また、お化粧することにより自分に自信がもて誰かと会いたくなったり、おしゃべりしたくなったりします。

ある老人ホームでメイクをした時のことです。普段周りの人とはコミュニケーションをとらず、いつも自分の部屋に引き籠り、孤立している方がいました。皆がメイクをしている間も部屋の隅でじっとしていました。なんとかしてメイクをしてさしあげたいと思い、「おばあちゃん、お化粧してみませんか？」と声をかけましたが、反応は返ってきません。そのままメイクを始め、「お肌きれいですね。」の声にも、やはり返事は返ってきません。

しかし、ポイントメイクにさしかかろうとした時、変化は起きました。沢山の色が入っているパレットを出すと、少々驚いたように小さな声で「これなあに？」と聞かれました。「これはね、アイシャドウとチークと口紅が沢山入っているんですよ。どの色をつけたいですか？」と尋ねると、照れくさそうに、「これ。」とつけてみたい色を指さして言われました。メイクが完成し、「こんなに綺麗になりましたよ。」と鏡をお見せすると、しばらく無表情で見つめられた後、にっこりと微笑まれました。その笑顔を押見し、メイクさせていただいて本当に良かったなあと思いました。

驚いたのはその後です。帰る時施設の方が来られてびっくりしたようにこう言われました。「お化粧していただいたあのおばあちゃん、普段は自分から行動するどころか誰ともお話しなされないんですが、今日メイクした後、ご自分で他の方のお部屋まで行き、みんなに見せていたんです。メイクの力ってすごいですね。」

その時のにっこりされた笑顔は今でも忘れることが出来ません。こういった出来事に遭遇する度、美容技術における心理的付加価値の大きさを痛感します。

お化粧と上手に付き合うか付き合わないかで、自分の気持ちの持ち方や周囲の方々に与える印象、好感度も違ってくると思います。とは言っても、実際に生活に取り入れて習慣化するのにはなかなか大変というのが現実だと思います。まずはメイクしてみよう、口紅だけ塗ってみようというちょっとした気持ちや、毎日おしゃれに関心を持ち続けることが大切だと思います。きっといつもと違う自分を発見することが出来ると思いますし、メイクの良さを知ってもらふことによって今後ますます素敵で元気な高齢者が増えていくのではないのでしょうか。

今日はそんなメイクの良さとヘアスタイルの相乗効果を見ていただき、少しでもおしゃれの楽しみ方を感じていただければ幸いです。

**特 別 講 演**

13:30~14:30

＜イベントホール（12F）＞

「高齢者にとって 生きるということ 装うということ」

樋 口 恵 子

（東京家政大学教授）

## 特 別 講 演

# 「高齢者にとって 生きるということ 装うということ」

樋口恵子(東京家政大学教授・人間文化研究所長)

## I 高齢者の生活と意識

- (1) 高齢者の人生 ———— 若い時期からの延長線上  
欲求も感情も若い頃と同じ
- (2) にもかかわらず社会生活上の変化  
定年、転職、引退、子どもの巣立ち、先輩・知友の死去、転居、配偶者の死など
- (3) さらに身体上の変化  
足の衰え・転倒の危険、骨折・けが、指先の不自由、力の衰え、腕が回らない、  
重量の負担感、性に関する問題、視力・聴力の衰え、身の回り品の置き忘れ、記憶  
力減退、尿もれ、結果として行動力の減退

## II 装う ———— 社会参加欲求と自己表現欲求

- (1) 日本の高齢者施設 ———— 集団主義、ユニフォーミズム、女性の施設カット

- (2) 高齢者の装い今昔  
「名残りの紅」から「いつだって紅」へ  
行動範囲の制限と装いの関係

- (3) 装いの男女差  
(1999年、高齢社会をよくする女性の会・島根大会 川柳公募作品より)

- (4) 装い介助という名の介護

### Ⅲ 高齢期の装いへ一つの提言

精神的継続性と身体的老化との妥協点

(2002年、高齢社会をよくする女性の会・熊本大会における「ユニバーサル・デザインの高齢者ファッションショー」から報告)

### Ⅳ 老いても衰えてもイベントと外出、社会参加の機会を、ハレの場を

# シンポジウム

14:30~16:00

＜イベントホール（１２Ｆ）＞

座長 佐藤林正（九州看護福祉大学教授）

美容福祉の可能性  
ー現場からの提言ー

- ・ 精神科病院に美容院を開設して  
岩崎由美子（昭和大学附属烏山病院精神保健福祉士）
- ・ 老人施設におけるコスメティック・セラピー  
原千恵子（山野美容芸術美容短期大学助教授）
- ・ 色彩からのアプローチ  
南涼子（カラー・コンサルタント）



## 精神科病院に美容室を開設して

岩崎由美子(昭和大学附属烏山病院)

### 1. はじめに

東京都内には、国・公立の精神科以外に協会加盟の民間精神科病院が約70病院(約2万2千床)ほどあります。それら病院が存在する場所は、23区内よりも多摩地域に偏在していることは、皆様をご承知のことと思います。

私が勤務する昭和大学附属烏山病院は、大正15年に個人の医師によって世田谷区に設立されました。今でこそ、都庁のある新宿から電車で15分の地理的にはたいへん便利な所ですが、当時は桑畑がたくさんあるような田舎でした。昭和26年には昭和大学に寄贈され、その後昭和33年頃より、臨床チームによる治療活動や、開放病棟をスタートするなど、日本の精神科医療の歴史にも残るよき実践を重ねてきました。そして昭和大学附属になってからちょうど50周年にあたる昨年より新病棟が着工され、今年6月に完成し、院内美容室『サンティール』も作られました。

### 2. 院内美容室を設置した理由

日本の精神科入院治療期間は欧米諸国より、長期であることをずっと批判されてきました。長期になる理由には、社会の受け皿がなかなか増えなかったことや、ご家族達の高齢化など、様々な社会的要因も影響してきました。しかし、福祉的な政策もようやく少しずつ整えられ、短期間で退院される方も増えてきました。

そのように入院期間が短くなる時代背景の中で、なぜ、病院内に美容室を作ることにしたのでしょうか。

- ①入院患者さんに、押し付けのプログラムだけでなく、より多くの選択肢を与えたい
- ②特別な日の「おしゃれ」だけでなく、日常生活の質を高めていくことを目指す
- ③「おしゃれ」することが、精神作用にプラスになることが認知されてきた
- ④高齢の入院患者さんが、気軽に安心して行かれる美容室が近くにない
- ⑤時に、精神的に不安定になる患者さんが安心して行かれる美容室がない

以上のような理由があげられます。

### 3. 美容室を作るにあたり悩んだこと

患者さんのためになるのであるからという熱い思いだけでは、美容室は作れません。素人の私達病院スタッフにはよく判らないことがたくさん出てきました。

ある精神科病院(老人保健施設併設)では、「理容室」を作る予定だったのですが、理容師協会にぜひ加盟するようにと地元から言われ、採算が合わないので病院側は開設を中止してしまいました。理容の専門家集団からの協力を得られなかったのは、たいへんに残念な話です。

私達はマンパワーの確保の方法もよく判りませんでした。「理容室」を既に持つ別の精神科病院に伺った話では、清掃や施設管理などの人材派遣をする特定の会社と連携しておられ、そこに理容師の派遣も頼んでおられるそうです。

私共の病院では、営利目的の「美容室」を作るつもりではないし、理容師か美容師の資格があるボランティアを探すことは出来ないものかと、本当にシンプルに考えていました。病棟内のコーナーで、ただ髪をカットするのなら難しいことはなかったのかもしれませんが。パーマやカラーリングもしましょう、もちろん、シャンプーもしますということが、これほどまでに、いろいろなことを準備することになるのかと、びっくり致しました。

まず、「シャンプーする」ということが、シャンプーする場所だけではなく、タオルを何枚用意するのか、その洗濯はどこに頼むのか、水道代などのランニングコストがどの位かかるのかなど、素人の私達を悩ませることになりました。カラーリングには、病院ではまず必要としない「黒タオル」を発注することになるなど、全く予想していませんでした。

またオープンするにあたり、営利目的でなくても保健所に届ける必要があるのか、ボランティア保険以外、どのような保険に入るべきかなども迷いました。

このような状態の私達に良きアドバイザーとなって下さったのは、山野美容芸術短大の鈴木昌子教授、及川麻衣子講師をはじめとする諸先生方です。

#### 4. 山野美容芸術短期大学との出会い

5年前に、『福祉新聞』で「ハサミの日：ボランティア派遣」との小さな記事を見つけました。施設ではない、精神科の病院にも派遣していただけるのだろうか、窓口になっているチャリティ協会に問い合わせ、応募が多い中、運良く当院の老人性痴呆専門病棟と精神科デイケアに大勢の学生さんを派遣していただきました。その日のことは今もたいへんよく覚えています。患者さん達が本当に喜んでくださった姿もちろん印象深いのですが、一生懸命に接する学生さん達の姿が何よりも忘れられません。『美容』とは、ただ化粧品を塗ることなのではなく、まず清潔にすることから始まり、安心してリラクセスしていただくこと、それ自体がまず、その人を美しくさせるのである」ということに気付かされました。接遇と言う点でも、学生さん達はきちんと視線を合わせ、患者さんの話される希望を一生懸命に聞いてくださいました。ソーシャルワーカーの私だけでなく、看護婦長たちもその姿勢に感動した一日でした。『美容』というお仕事が、「看護」にも通ずるものではないかと思ひましたし、私共が専門とする「心のケア」にも必要な要素なのではないかと考えるきっかけになりました。美容の「技術」だけでなく、その「心」を伝えておられるのは、教員の方々の日頃の活動の成果だと確信しております。

#### 5. まとめ

ご高齢の方や障害者にとって、日中、おしゃれをして楽しかった日は、晩にはそのお化粧などをきちんと取ることを厭わないでヘルプする介護者やスタッフが必要です。一日のひとコマだけで終わるのではなく、継続すること、持続することこそが大切です。病院であれ、施設であれ、在宅介護をされるご家族であれ、おしゃれすることの意義をよく理解して、気持ちよくお手伝い出来る「文化」を創っていかなければいけないのではないのでしょうか。お化粧すること、おしゃれすることが、贅沢なのではなく、生きていく活力として必要なことであるという共通理解を、これからもぜひ広めていく一翼を担っていきたいと考えております。

# 老人施設におけるコスメティック・セラピー

原 千恵子（山野美容芸術短期大学助教授）

## I. セラピーとしての美容の意味

### 1. イメージをひきだす誘因の強さ

およそ3年間にわたって老人施設への出前カウンセリングを行っています。カウンセリングの目標は、対人関係を通して、情緒安定や脳機能の活性化をはかることです。絵画、音楽などの芸術的要素を用いてイメージを浮かべる、広げる、表現するなどを段階的に行っていましたが、ある施設で化粧を中心に試みました。芸術療法と同じように、段階的に治療を考えたのですが、意外なことが起こりました。①鏡をみる ②化粧水をつける、などの段階をクリアーして、と考えていた私たちの予想をはるかに越えて、最初、鏡を見ることを躊躇していたお年寄も、数回やっただけで自発的に化粧をし始めたのです。化粧の持つイメージを呼び起こす力の強さに驚きました。

### 2. 習慣の呼び戻し

化粧は、高齢者にとっては、生活習慣の再生であり、回想のよい刺激材料となり脳の活性化をもたらします。

### 3. 社会性の内包

化粧は、美しくなりたい、と言う「人」の本能的な欲求と結びついています。しかし、他の基本的な欲求と異なり、社会性を含んでいます。つまり鏡を見ないかぎり、自分の顔も髪も見えないので、自分が美しいという判断は他者にゆだねられ、他者の存在を意識してその欲求はかなえられるわけです。化粧には、社会性が内包されています。さらに化粧は、時間、場所、目的などにもマッチする必要があります。それらを含んだ上で美しい、と評価されるわけで、「化粧する」行為のなかには、対人関係にとどまらない社会性が無意識にとりこまれています。

### 4. 自尊感情のよびもどし

施設に入ってから、ご自分の力を放棄して、依存的に暮らしている高齢者がいるかもしれません。自分で化粧して、いつもと違う自分を発見し、「私もすてたものではない」と感じた時、自尊感情に結びついた高次の欲求が満たされます。

### 5. セラピストとの人間関係

「Aさん、もう少し眉は薄い方が良いと思いますよ」とちょっと直してさしあげます。「そうね、これじゃ、お祭りみたいだもんだね、あんたの肌はきれいだね」とセラピストがほめられ、話しが平行して進みます。不思議なことに痴呆の方も全く普通におしゃべりができます。そしてスキンシップによる密接な関係が生まれます。

### 6. 自己実現の援助者としての関係

高齢者はセラピストを、「私が人として生きることを大事にし、援助してくれる人」として、とらえます。高齢者は、あきらめた、と思った普通の人生を、生きなおそうとする希望を持つことができます。

### 7. 眼に見える実際的な効果

セラピストがうれしいのは、高齢者の笑顔です。そして「ありがとう」という言葉です。

### 8. 自立へのステップ

他者からケアされることが多かった高齢者も、自分でする化粧から、自分のためのケアをやり始めます。

### 9. 施設を変えるステップに！

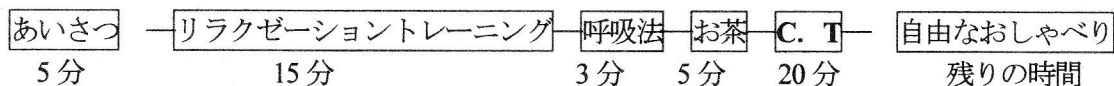
化粧した高齢者は、「外へ行きたい！」と言います。化粧は社会と人をつなぐ見えない糸です。高齢者が町へ、自然の中へ出ていくことは、大変なことだけでも、かなえてあげたいものです。そのためには、施

設を、社会を変えるほどの力が必要でしょう。

## II. セラピーの実際

これまでにセラピーで訪問した施設は、デイケア・センター（1ヶ所）特別養護老人ホーム（4ヶ所）有料老人ホーム（1ヶ所） およそ90人の人々を対象としました。ここでは、最近終了したコスメティック・セラピーを中心に高齢者にとっての美容の効果について述べます。

1. 対象者 特養入居者 9人（80歳～96歳・平均86.3歳）全員女性 要介護度 2～5
2. セラピー実施期間 隔週1回 2002年 3月～7月 10回
3. セラピーの内容



### 4. 効果測定

- |                       |                         |
|-----------------------|-------------------------|
| 1. 表情 — VTR による       | 2. 情緒・自尊心 — 自己像、色塗りによる。 |
| 3. 日常生活 ADL — GBS による | 4. 知能 — HDS-R による       |

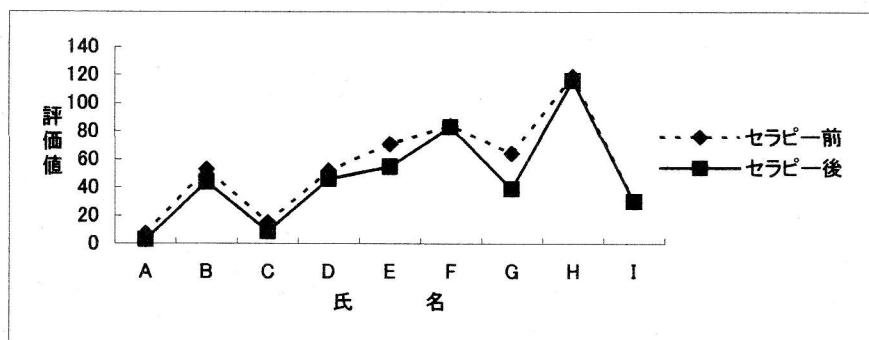


図1 セラピー前後のGBS評価値(最高評価0)

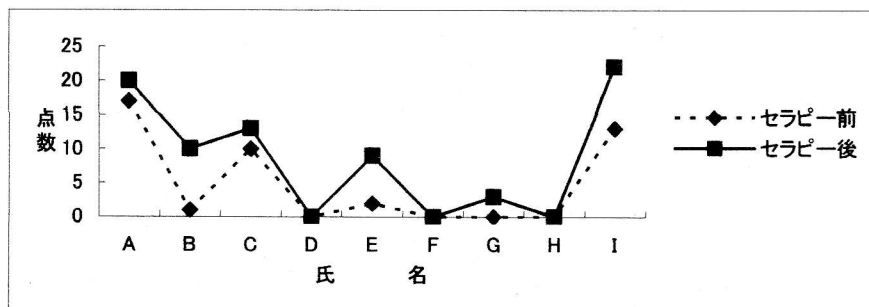


図2 セラピー前後のHDS-R点数(最高30点)

## 色彩からのアプローチ

南涼子(カラーコンサルタント・有限会社アルティスジャパン)

身体の老化や機能の低下、環境の変化などの様々な要因で生きる張り合いを失いがちな高齢者に美容は若々しい気持ちを取り戻し気持ちのハリを与えるきっかけになる。外見的な魅力を高めることは自信と前向きな意欲を促すだけでなく、他者とのコミュニケーションをスムーズにする手助けになるといわれている。最近では美容のもたらす心理的効果に着目しリクリエーションに取り入れる施設が徐々に増えているが、現在の高齢者にとって化粧やおしゃれは「特別なもの」であり日常的行為として捉えられていることは少ない。その背景にあるものは「歳だから何をしても無駄」「派手になるのではないか」「笑われるのではないか」「恥ずかしい」という意識である。

日本の高齢者の服装は地味でおとなしく、くすんだ、暗いイメージがある。実際に介護職員に高齢者のイメージを色に例えるアンケートを行ったところ、グレーと茶色の二色が過半数を占める結果となった(表1)。これらは保守的で活動性と変化に乏しい暗い色であり、高齢者は地味だという社会的イメージが定着していることを示している。高齢者自身も「年齢にふさわしい」ことを基準に考え、第三者による高齢者に対する社会的イメージを意識して衣服を選んでいる。

装いにおける色彩は情緒と個性を表現するひとつの手段である。誰でも好きな色を身に纏うと心が晴れやかになったりウキウキするといった経験があるように、色は人間の気持ちを高揚させたり活発にさせる力を持っている。色彩は装いを成す重要な要素であり、選択の幅が狭いことはおしゃれの楽しみを半減させてしまうといえるだろう。

色彩と美容は化粧・服装・ヘアカラーなど全てに関わり合いがあり切り離せない関係にある。美容に携わる者や介護者が美容福祉を実践するうえで色彩を理解し知識を身につけることは大切である。色は一人一人の個性を引き立たせ装いの満足度をさらに高める。美容福祉における色彩の活用は高齢者に心の豊かさをもたらし、おしゃれの楽しみを感じてもらうためにもおおいに役立つと思われる。

### 色彩による美容リクリエーション

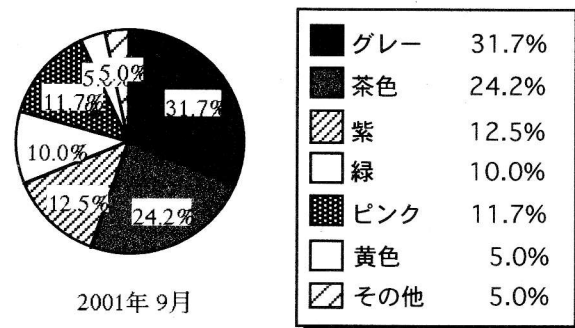
色は空気と同じように常に私達の周りにあり普段から慣れ親しんでいる身近な存在である。「どんな色が似合うか見てみましょう」「〇〇さんの好きな色は何色ですか?」「今日お召しになっている服は素敵な色ですね」といった色をテーマとした語りかけは高齢者との会話を促す刺激となりコミュニケーションをスムーズにする。身近で親しみやすい色を主体にした美容レクリエーションは高齢者にとって受け入れやすいようである。

報告者は二年前から横浜市内の特別養護老人ホーム・地域ケアプラザにて色彩による美容レクリエーションを次の目的と方法で行っている。

#### 目的

- ①高齢者各自の似合う色を分析し、アドバイスをを行い潜在的な魅力を引き出す。
- ②おしゃれの選択肢を広げて前向きで明るい気持ちへと導く。

表1 高齢者の色彩イメージ 回答者：介護職員120名



③色彩で視覚的刺激を促し気分を活性化させる。

## 方 法

服装、化粧に対する意識と嗜好色のカウンセリングを行い、カラードレープ 80 色 (50cm × 70cm のポリエステル色布) を用いて順送りに顔の下に当てて行く。対象者の正面に置いた鏡で対比による顔映りを確認しながら肌色がより良く見える色を選びだし、顔映りが良い色の最も多い色調のグループを提示してアドバイスする。女性には色のレクチャーとその色を中心としたメイクアップを行う。男性には色を示した後眉毛などを整えて印象を明るくする。この場合高齢者にわかりやすく提示するためのカラーチャートなどがあればさらに効果的である。

## 色調のグループ

色調のグループは大きく分けて四種類がある。

- ①黄みを帯びた明度の高い澄んだ色調
- ②黄みを帯びた明度の低い濁りのある色調
- ③青みを帯びた明度の高い淡い色調
- ④青みを帯びた明度のやや低い鮮やかな色調

## 肌色をより良く見せる色の効果

肌色は表皮の角質層からの反射光やそこに含まれる色素メラニン、ヘモグロビン、カロチンの量、皮膚の厚みによって色みが異なってくる。肌色をより良く見せる色は肌の色みと明度、髪の色、顔立ち、体型、イメージとの整合性が判断材料となる。肌をより良く見せる色とは「顔色が明るく血色が良く見える」「透明感が感じられる」「健康的で若々しく見える」色のことである。このような色は化粧やヘアカラーにも応用することができる。ファンデーション、アイシャドウ、頬紅、口紅に用いれば肌色を一層美しく健康的で自然な印象に仕上げることができる。肌色を良く見せる色の分析を行うと女性の高齢者が化粧まで希望するケースも多く、化粧をした後の満足度も高い。色によって肌色に変化する光景を目の当たりにすることは実感を伴った自信につながるようである。色彩は化粧や服装に対する積極的な態度を促す刺激として効果的だと考えられる。

色調の特定は主観的な誤差も生じやすく複雑な要因も絡みあい、実際には四パターンだけに限定することはできない。肌色をより良く見せる色の分析にはまだまだ改善の余地があり研究の必要があると思われる。美容福祉における色彩は色の分析を正確に行うことよりも高齢者に色を楽しんでもらい自信を与え、装いに積極性を促すのが目的である。色の特定にこだわり本人の嗜好色を無視して枠にはめることは高齢者に不快な気分をもたらす、装いの選択幅を狭める結果になりかねない。美容福祉に色彩を用いるならばこの色調がよいと押し付けるのではなくこのような色も選べるという装いの可能性を広げるスタンスに立った働きかけを行いたい。

## おわりに

長期的な不景気が続き暗いニュースの多い現代の日本では、超高齢化社会の沈鬱なイメージも相まって若い世代は先行きを悲観し歳を重ねることに否定的な考えを持つ傾向にある。しかし高齢者が美容を日常的に行い装いを楽しみ、いきいきと過ごしていれば「希望を与える存在」となり、従来の高齢者や介護施設につきまとう暗いイメージは払拭されるだろう。報告者は色彩は単に装いを彩るだけではなく、高齢化社会を彩ることができる力を持っていると考えている。さらに美容福祉は今後高齢者と障害者、介護に従事する人々に内面から輝く健康的な魅力と「生きがい」を作り出す大きな原動力になると確信している。

# ワーク シ ョ ッ プ

16:00~17:00

〈第 1 セミナー室 (1 2 F)〉

高齢者のハンドケア  
ーネイルケアとハンドマッサージの方法ー

鈴木昌子

(山野美容芸術短期大学教授)

及川麻衣子

(山野美容芸術短期大学講師)



## 高齢者のハンドケア ーネイルケアとハンドマッサージー

鈴木昌子・及川麻衣子（山野美容芸術短期大学）

私達は普段、最も目につく顔のスキンケアや髪の毛のヘアケアには力を入れますが、ハンドケアまで力を入れている方は少ないのではないのでしょうか？手は生活する上でもっとも使う部分であり、指の先端にある爪は、指先にかかる力を支える役目をしています。また、指先の皮膚を保護するという重要な役目も担っています。指先の微細な感覚や鋭敏な動きが自由にできるのも丈夫な爪があるからです。丈夫で健康な爪を保つためにも、スキンケア、ヘアケアと同様にハンドケア、ネイルケアは清潔にしてきちんと身だしなみを整える大切な習慣の一つだと思います。

爪には加齢とともに、さまざまな変化があらわれます。私達がボランティアで老人ホームを訪れる際、高齢者に最も多く見られるのが、爪の表面に走る細いすじ「爪甲縦条」です。これは高齢になればなるほど縦すじがはっきりしてきますが、皮膚に出来るしわと同様に、爪の老化現象ですので病気ではありません。

高齢の方や体の不自由な方の場合、自分で爪を切ることが出来なかったり、ケアすることが困難な方が多いのでハンドケアやネイルケアの施術はたいへん喜ばれます。

現在、核家族化・情報化が進み、社会システムやライフスタイルが複雑化・多様化し、人とのコミュニケーションがとりにくい時代の中、ハンドケアは人のぬくもりを感じとりながら人と人とが一对一でコミュニケーションを深めることが出来る最もシンプルなヒーリング(癒し)なのではないでしょうか。

ハンドケアは沢山の道具を準備する必要はありませんし、メイクが苦手という方や、男性の方、老若男女問わず誰でも気軽にできます。皆さんも是非、心身のリラクゼーションを体験してみてください。

用具等はこちらで用意いたします。

参加者同士で相モデルをしながら行います。

ハンドケアの知識や技術を持っている必要はありません。気軽にご参加ください。

なお、ワークショップで用いるネイルケア用具（スリーウェイバッファー）は、そのままお持ち帰りいただけます。

参加費：1,000円

申込み：受付にて、参加費を添えてお申し込みください。



広告協賛一覧

協 賛

山野美容芸術短期大学

広 告

山野美容芸術短期大学美容福祉学科

株式会社アリミノ

株式会社キタ・メディア

株式会社オカセン

生活協同組合東京インターカレッジコープ

株式会社トータス

日本通運（株）新宿旅行支店

有限会社ユニバーサル・ワイ・ネット

日本ユニバーサルカラー協会

株式会社ヤマノ

山野美容芸術短期大学

（50音順を原則とさせていただきました。）

日本美容福祉学会誌 第2巻 抄録集 2002年10月20日発行  
The Japanese Journal of Welfare and Aesthetics Vol.2 Suppl.

- ☐ 発行人 塩原正一  
☐ 発行 第2回日本美容福祉学会学術集会事務局  
〒192-0396 東京都八王子市鍵水530  
Tel.0426-77-0111 Fax.0426-77-0234 E-mail : jswa @ yamano.ac.jp  
☐ 編集 代表：木村康一  
杉浦ゆり 原千恵子 平尾良雄 竹田幸司 及川麻衣子 山川宏和  
五十嵐靖博 能勢由紀子 上田明美  
☐ 印刷 株式会社 キタ・メディア